

民家園における活用戦略考案のための方法論

Methodology for the Design of Utilization Strategy in Open Air Museums

熊谷八重
KUMAGAI Yae

1. 序論

(1) 民家園に関する先行研究と本論の位置づけ

民家を移築保存するとともに展示公開を行う民家園は、民家園保存の一手法として日本全国に見られる。代表的な民家園は貴重な文化財である民家の保存を続けながらも来園者向けに様々な取り組みを行っている。

日本の民家園全体としては、専門的知識を持った職員の不足や入園者数の少なさ、建築物活用の消極性といった課題を抱えているのが現状である。日本の民家園は財団法人や企業の指定管理による運営が主流となっており、望まれる機能と合理的な経営の両立が求められているが、課題と取り組み（事業）には戦略的な一貫性が読み取れない。

先行研究¹⁾では課題に対し民家園がどのように対処していくかという点について具体的な提案が不足している。そこで本論を、民家園が適切な課題設定と事業の立案を行う方法についての考察であると位置付けた。

(2) 研究目的

ロジカルシンキングの方法で民家園の抱える諸課題を原因と結果の繋がりに整理することによってそれらの解決に向けて適切な取り組みを企画する、その方法論を提案することを目的とした。方法論を用いて今後の民家園運営の改善の可能性が期待できる。

(3) 研究方法

文献や各園HP、筆者の野外博物館合掌造り民家園でのインターン経験をもとに抽出した民家園の課題について、ロジカルシンキングによる因果関係の整理を行った。ロジックツリーを試作し、実際の取り組みの要素の関連分析から考察を求めた。

2. 民家園とは

現在の日本の民家園は北欧に始まった野外博物館の概念に含まれ、民家を主なコレクションとした野外博物館であるといえる。設立当初は海外同様に自国のアイデンティティを示すことを目的として企画されたが、戦後は開発から民家を緊急避難させる受け皿として日本各地に広がった。その過程で民家園は各地方の生活史を伝える役割を持ち、周辺地域と強い関係性を持つようになった。現在の民家園には、積極的な地域住民の参加や来園者とのコミュニケーション機能を持つことが求められている。

2005年度の民家園シンポジウムⁱⁱ⁾の統計によると、来園者の減少傾向や今後の展示棟数の増加見込みがない状況がうかがえる。その中で来園者向けに民家園が企画する取り組みの役割はますます大きくなると推測できる（図1、図2）。

運営主体としては財団法人や企業の指定管理が大半を占める（図3）。

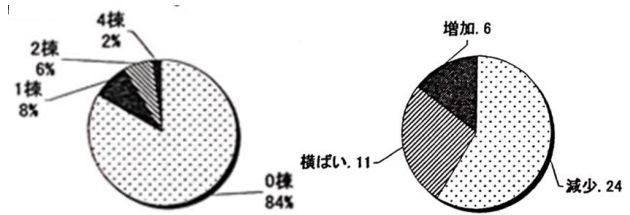


図1 (左) 過去5年(2005年当時)の増加建物数

図2 (右) 過去5年間の入園者の増減

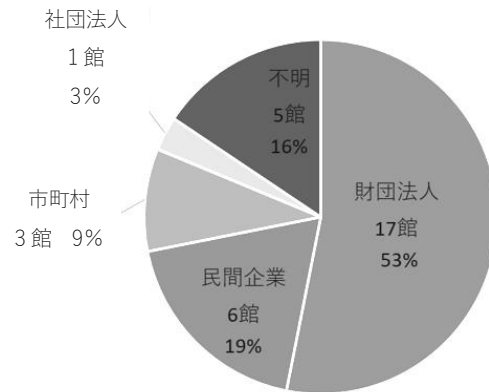


図3 管理運営主体

指定管理の財政状況には入園料のみで運営する園と入園者と指定管理料の園があり、民営による合理的な経営が目指されていることがうかがえる。

3. 課題解決のプロセスの現状

現在実施されている2つの民家園の再整備計画から日本の民家園の課題策定について把握した。

飛騨民俗村の再整備計画では、民家園の所在地である高山市の観光戦略と関係づけ、民家園が体験型観光の拠点となることが期待されていた。ここでは観光施設として不備のある部分や広報の方法についての課題が不足点として挙げられていた。

世田谷区の次太夫堀公園民家園の再整備基本構想は、民家園のある次太夫堀公園全体や周辺との関係から今後の民家園の指針をまとめた構想であった。ここでは複雑な運営形態が問題視され、ボランティアや公社と行政が役割分担し維持管理や保存活用を行う方針を作ることが課題であった。

再整備計画では前提となる民家園の理想像に対し、取り組んでいく課題との具体的な繋がりが説明されておらず、個々の業務や取り組みが理想像のどの部

分を担っているかが不明であった。調査から各課題について別々のものとして捉えられ、対処療法的な課題設定や方法が取られており、戦略的に課題に取り組む体制や考え方、ルール作りが確立されていない様子がうかがえた。このような事態は他の民家園でも起こっていることが予想される。

4. ロジカルシンキングの実践

前章で抽出された課題を用いて課題同士を原因と結果の関係として考えるロジカルシンキング(図4)による課題の整理を行った。

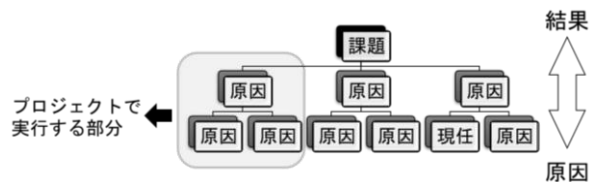
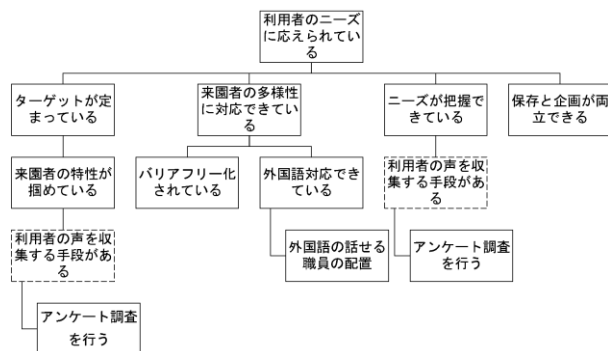


図4 ロジカルツリーの概要

分析の結果、課題の偏りや課題の根本となる事象を可視化し、課題同士の優先順位や手段として補強すべき部分が明確になると考察することができた

(表1)。また様々な視点からツリーを試作し、客観性を高める必要性も確認できた。

表1 ロジカルシンキングによる課題整理の一例



具体的なプロジェクトの内容については、ツリーの繋がりをいくつかのまとまりに分けることで、民家園の資源の範囲で可能な取り組みを判断しやすくなった。このようにして実際の適切なプロジェクト提案の流れを掴むことができた。

5. 民家園の取り組み

川崎市の日本民家園が平成26年4月から29年度11月までに来園者に対して行った125件の取り組みを場所や形式などの要素で分類し関連を分析すると、人の集まりやすい園内の中心的な場所で体験を行っていることなど、要素と要素に関連性が見られた。

実際にプロジェクトを提案する際に、場所や時間などプロジェクトの各特性を含めて論理的に考慮することで、課題解決に効果の見込めるものを的確に立案できると考察できた。

6. 結論

それぞれの課題の因果関係を整理することによって、優先順位を明確にし、民家園が力を注ぐことのできる具体的なプロジェクトの提案までの流れを提案することが出来た。これにより課題解決において論理的な説得力をもったまま、的確なプロジェクト立案をすることが可能になると考えられる。本論で述べた方法は今後民家園が企画を立案する際の思考回路や枠組みになるものである。

因果関係の整理はそれを行う主体によって異なる結果が出てくることが明らかになっている。ロジカルシンキングは民家園の管理者だけでなく地域住民などのステークホルダー全体の視点も含みながら整理することで、議論の際に一つの合意のとれた方向性を決定する効果を発揮すると考えられる。本研究で提案した方法論は今後多様な役割を求められる民家園に適した一手法として捉えていきたい。

今後の展望

本論では調査不足であった情報について今後分析に反映させていきたいと考える。ロジカルシンキングによる課題整理では民家園以外の野外博物館や他の民家保存手法における取り組みのデータ、取り組み分析では参加者数(入れ込み)のデータも一つの指標として使用していくことで、各民家園の特性に適した取り組みのよりの確な提案に貢献できることが望まれる。

方法論の効果については今後、民家園やそこに関わる業務の中で実践することによって実証できることを期待する。

ⁱ 大原一興、大月敏雄、大野敏「古民家の保存・活用のための方法論的研究」住宅総合研究財団研究年報、2000年、26巻、pp. 263-274/早川信子、高橋英久「日本における木造住宅の移築事例に関する研究—保存活用を目的とした展示施設への用途変更事例を中心として—」住宅総合研究財団 研究論文集 No. 43、2016年、pp. 263-274/早川信子「歴史系博物館と建築資料に関する観究—東京都内の建築関係資料収集・管理・展示・活用を中心に—」住宅総合研究財団 研究論文集 No. 36、2009年、pp. 399-410

ⁱⁱ 岸本章「2005年度シンポジウム報告 民家園を考える—移築保存型野外博物館の今後—」日本民族建築学会『民俗建築』第129号、2006年、pp. 87-97

Abstract: Japanese open air museums has problems such as a shortage of professional staff, a small number of visitors, and a reluctance to utilize buildings. Japanese open air museums are mainly operated by a private company or foundation, and a strategy for balancing communication functions and rational management is necessary. This paper discusses the methodology for planning suitable projects to solve problems by the method of organizing problems using logical thinking. Based on the literature, each museum's website, and the author's internship experience at the museum, the problems of the Japanese open air museums were extracted and the causal relationship was organized. The methodology can be expected to be used as a framework for future open air museums management.